

商業高校による地域の小中学生を対象とした プログラミング教育支援実践事例

1

学校名	北海道札幌東商業高等学校
テーマ	ビジュアル型プログラミング言語Scratchによるプログラミング入門
対象	小学校5・6年生と保護者及び引率教諭
実施日	7月30日(月)～8月3日(金)
講師	北海道札幌東商業高等学校 情報処理部生徒（2年生2名）

プログラミング入門の流れ

時間	前半45分	後半45分
内容	プログラムを組み立てよう	プログラムを改造しよう

- 本校では、情報処理部員が部活動で身に付けた知識、技術を地域社会に還元することを目的に、プログラミング教室を始めました。
- 情報処理部ではプログラム言語は「Scratch」を使い、簡単なプログラミングの演習を行いながらアルゴリズムを小学生に教えました。
- 今後は中学生を対象とした「マクロ言語」の内容を検討しています。



参加者の声

- 楽しかったです。機会があればもっとscratchをやってみたいです。（小学生）
- 教えることでいろいろ分かったり、学ぶことができました。（情報処理部員）



情報処理部顧問
平舘先生

本校では、プログラマーやシステムエンジニアなど、ビジネス情報分野に関わる職業人を育成しています。平成30年度春期の基本情報技術者試験（国家資格）では東商生16名が合格（全道43名中）することができました。部活動のオフシーズン（2・3月、夏休み）はプログラミングを地域の小学生、中学生へ教えることもできますので、ご希望の方はお問合せください。

札幌東商業高校 Tel011-891-2311（担当：平舘・茶谷）

Scratch(スクラッチ)

プログラミング初心者が楽しく学べるソフトウェアです

マクロ言語

パソコンを使った業務の自動処理を記述するための言語です

基本情報技術者試験

ITエンジニアとしてのキャリアをスタートするための試験です

Keyword 小学生、中学生

Scratch、マクロ言語、国家資格



北海道教育庁学校教育局
高校教育課（キャリア教育指導グループ）